

## 仙人通信 216 栗生山(968m)

栗生山は赤城山と袈裟丸山の間に位置した独立峰で、春はアカヤシオ・秋は紅葉で有名な山で二等三角点の山である。

渡良瀬川沿いを走る国道 122 号線の青木湖に向かい進み、わたらせ鉄道の水沼駅のある水沼交差点を左折して、県道 257 号を進み栗生神社を示す道標に従い栗生神社の石の鳥居の横にある 3 台程駐車可能な駐車場に車を置き、栗生山をピストンすることにした。鳥居を潜り 200 段近い階段を登ると、新田義貞の部下の 4 天王と言われた栗生左衛門頼方公を 1790 年にこの地に祀ったとされる黒保根(地区名?)栗生神社だ。この神社の奥社の伽藍は有名な人が造った事もあり、現在は群馬県指定文化財として保存されている。又この神社の右手には、樹齢 1200 年と言われ、丈が 50m 近い大きな杉も群馬県指定天然記念物として有名である。神社の左手のコースを 20m 程進むと、径が 30 cm もある杉林に突入である。直ぐに幅 2m 程の林道と合流である。この林道は、急勾配である事からかコンクリートの表面に滑り止めだろうか竹ボウキで掃いたような溝が付けられており、安心しての登りだ。杉の木の根元には、花びらの先を釣り糸状に地面まで下げたウラシマソウや白い小さな花のヒトリシズカである。神社から 15 分程進むとこの林道も終わり、勾配が 60° 程の杉林の登山コースの始まりである。この杉林は山頂方向に向かい両側にある岩稜が迫り、その中を足元の岩に注意しながら九十九折で登る。岩の間には、小さな白いワチガイソウが心を癒してくれる。そんなコースを 35 分程進んだらうか、左手の崖に赤紫のアカヤシオを発見だ。杉林から抜け出し尾根コースとなる。芽を膨らませたリョウブ・ブナ・ナラそして花を付けたカタクリやヤマザクラだ。何と 8 分程で咲き始めたアカヤシオが飾る山頂である。指で二等三角点の標柱に触れ山頂を確認だ・・・。駐車場から丁度 1 時間だ。ガイドにある様に、山頂からの視界は木々に遮られている事から北側に僅か下がった展望台へ向かった。この展望台からは赤城山・上州武尊から袈裟丸山までが一望できる。突然であるが山の下から、転倒するほどの風が吹き上げてきて、岩や木の幹を掴む程の状態となってしまった。地図を広げて、過去に登った山々を確認することも出来ずに、登って来た下山コース辿る事 50 分で神社に戻った。2 時間 10 分程(6600 歩)の焦った山旅となってしまいました。帰路の崖に咲く藤の花に心を癒した山旅でした。(R3.4. 22)

栗生神社と大杉



登山コース



ヒトリシズカ



山頂



展望台から

